

講演会
&
座談会

「美術館の過去、現在、未来—
ミュージアムの可能性を考える」

2018/ **5/12 (土)** 14:00~17:00



21世紀に入ってほぼ20年、人々の生活・価値観は大きく変化してきました。「美術館」についても、例えば写真撮影が奨励されるなど、ここ20年で、利用のされ方、社会におけるイメージはずいぶん変わりました。そのような変化の中、未来に向け、美術館はどうあるべきなのでしょう。本講演会では、長年、美術館・博物館における文化の表象の在り方を研究してきた吉田憲司氏(国立民族学博物館長)を招き、美術館の歴史と現状、そして未来への展望を語っていただきます。また座談会では、吉田氏とともに、福岡市科学館の運営に関わる株式会社福岡サイエンス&クリエイティブ代表取締役・山村健一郎氏、そして、福岡市美術館長・錦織亮介が登場し、利用者、地域、社会をキーワードに、ミュージアムのこれからの可能性について話合います。

吉田 憲司 講演会講師

アフリカ・ザンビアのチェワ社会を研究フィールドとする。一方、1990年代以降は、博物館や美術館における文化の表象の在り方を研究。著書に『文化の「発見」-驚異の部屋からヴァーチャル・ミュージアムまで』(岩波書店1999年 第22回サントリー学芸賞受賞、第1回木村重信民族芸術学会賞受賞)など。2017年より国立民族学博物館長。

座談会パネリスト

吉田 憲司 (国立民族学博物館長)

山村 健一郎 (株式会社福岡サイエンス&クリエイティブ 代表取締役)

九州芸術工科大学(現九州大学芸術工学府)画像設計学科卒業。プランナー出身の営業として文化施設の構想・計画の他、PFI事業や指定管理者事業(運営事業)、官民コラボレーション事業などを推進。三重県立総合博物館、海遊館、NIFREL(ニフレル)、福岡市科学館整備運営PFI事業などを担当。

錦織 亮介 (福岡市美術館長)

長崎県立美術博物館学芸員補、北九州市立大学教授を経て、同大学名誉教授、2012年より福岡市美術館長となる。仏教美術、特に黄檗宗絵画を専門とする。著書に『天部の仏像辞典』(東京美術、1983年)、『黄檗禅林の絵画』(中央公論美術、2006年)など。

場所 福岡市科学館 6階サイエンスホール

〒810-0044 福岡市中央区六本松4-2-1

定員 260人(申込不要・聴講無料)

※先着順。定員になり次第締め切ります。

お問い合わせ：福岡市美術館 学芸課 Tel.092-714-6054

当日スケジュール

13:30 受け付け開始

14:00 講演会開始

15:30 休憩

15:45 座談会

17:00 終了